

## みんなが楽しく滑るために



▲競技大会で訓練の成果を発揮し、素早い救急法の技術を披露する団員

## スキー パトロール 赤十字奉仕団

**富** 良野スキー場のコース内で負傷した人の救急や応急手当をするなど、安全の確保や救助で活躍しているスキーパトロール赤十字奉仕団（上村雅則<sup>まさのり</sup>団長）。昭和39年に設立され、さまざまな職種の男女32人が所属しています。

奉仕団員は、止血方法や包帯の使い方などの技術を習得する救急法と、雪上での応急手当の知識と技術を

習得する雪上安全法の資格を有し、定期的に講習会などを実施しています。

スキー場では、「北の峰ゾーン」と「富良野ゾーン」の2カ所に分かれて活動し、誰も滑っていない朝一番にコースを巡回しながら安全を確認。山頂のゴンドラ降り場などで待機し、すぐに現場へ出動する体制がとられています。また、ワールドカップ世界大会をはじめ、各種大会においては救護班として活躍。「多い時には年間600人近くのおさまさまな負傷者を応急手当してきました」と40年にわたり団員として活動してきた上村団長は振り返ります。

富良野スキー場に勤務している東秀和<sup>あきかず</sup>団員は、「けがをしないで楽しく滑ってほ



▲優れたチームワークで見事地元で総合優勝した富良野チームのみなさん



▲団員同士で教え合いながら、月に2回程度救急法の訓練を行っている

しいのですが、最近では膝をねんざする人が多いです。親子で滑る人も多くなっているの、いざというときのために、お父さんやお母さんにも救急法を学んでほしい」と話します。

また、平成25年に開催された第41回北海道赤十字スキーパトロール競技大会in富良野では、初めて総合優勝を果たすなど、これまで団員一人ひとりが培ってきた技術を発揮しました。

「包帯の巻き方など、救急法は自然災害のときも使えるので、少しでも多くの市民が応急手当などができるようにしたい」と話す上村団長。高齢化や若い人が入団しないこともあり、無くなってしまう奉仕団があるなかで、富良野のスキーパトロール奉仕団は、これからも楽しくスキーを滑るみなさんを見守っていきます。